

質 問

農山村交流を通じた 地域活性化の考えは

若月忠男 議員

町長 地域に子供たちの元気な声が響く町づくりに取り組む考えです



問 奥出雲町に児童生徒の、農山村交流をどのように受けとめ、対応される考えについては。

答 農山村交流につきましては、全国的に取り組まれるようになってから、既に長い年月が経過しております。

今日では、子供だけではなく、家族も含めて、家族留学方式に、転換する動きが広まっているようです。

町の空き家活動制度も利用しながら、自然あふれる魅力ある環境のもとで交流が深まり、これが

U・ターンにつながっていく、子育て環境、教育環境、奥出雲は素晴らしいところだと言ったのが広がって行き、それがU・ターンにつながっていくような取り組みをしてまいる必要があると思っています。

農業体験など伝統産業と、農林業を通じた児童生徒の農山村交流など、今後取り組むべき課題は多々あると認識しています。

3世代住宅の改修への助成なども、今後検討していくべき事柄だと思っています。このような各種取り組みが成果を上げるためには、地域住民の方々のいろんな御支援、御理解が、必要だと思っております。町民の皆様への御意向を伺いながら、関係機関と連携し、地域に子供たちの元気な声が響く町づくりにつながるよう取り組んでまいりたいと考えています。

問 横田高等学校の教育環境整備で、特に生徒数増員計画についての協議

は。

答 先般も関係者協議を行いました。既に具体的な取り組みにつきまして、中学校における進路に係る三者面談の充実や、高校から中学校への、出前授業や、中高連絡会など中高連携の充実、高校説明会、オープンハイスクール、さらには公開授業の実施など対策を講じて行きます。

特に横田高校で学びたいと思える、魅力ある学校づくりの推進に向けましては、総合学科という提案もいただき、県教委とも協議が必要だと思っておりますが、そういうことも含めて、関係機関と連携しながら、横田高校への志願者がふえるよう取り組みを進めてまいりたいと考えています。

問 国際交流は全国的に取り組まれており、経済効果もあり、地域活性化には、積極的な取り組みが必要と思うが。

答 市町村が行う国際交流は、人と人との交流、心と心の交流を通してお

互いの歴史、文化、伝統の違いを認め、双方が刺激を与え合うことで、地域の活性化につながると言われております。住民主体の交流が広がり、より多くの方々が、身近なところで交流に参加できるようにすることが大切と考えています。また、近年外国人の定住化が進んでいることから、異なる文化や習慣を尊重し合う多文化共生の町づくりを進めて行く必要もあると思います。奥出雲町の外国人登録者数は、8月末現在で118名、国際結婚夫婦は26組です。言葉や文化の違いを乗り越えて、同じ町民として暮らしていただけるサポート活動が大切と認識しております。

外国人住民に対する多文化共生の、町づくりを進めるとともに、島根県が進める韓国をはじめとする、海外からの観光客の誘致事業を積極的に推進してまいりたいと考えています。